

消防団活動に関するアンケート 調査結果

令和6年3月

千葉県防災危機管理部消防課

1. 調査概要

(1) 調査対象

県内各市町村等消防団に所属する全消防団員(令和5年4月1日現在)

23,057名 <内訳>男性:22,429名 女性:628名

(2) 回答集計期間

令和5年8月1日(火)～9月10日(日)

(3) 調査方法

「ちば電子申請サービス」による無記名方式

(4) 回答数

7,731名(回答率 33.5%)

<内訳> 男性: 7,490名(回答率 33.4%)

女性: 228名(回答率 36.3%)

その他 13名

2. 調査項目

(1) 回答者の属性

年齢、所属している消防団の地域、消防団加入期間、階級

(2) 消防団活動に関すること

- ・きっかけ
- ・入団理由
- ・消防団活動のやりがい
- ・消防団活動を通じてよかったこと
- ・消防団活動で不満(負担)に感じること及びその理由

(3) 操法に関すること

- ・操法訓練について
- ・消防操法大会の開催について

(4) その他消防団活動に関する意見

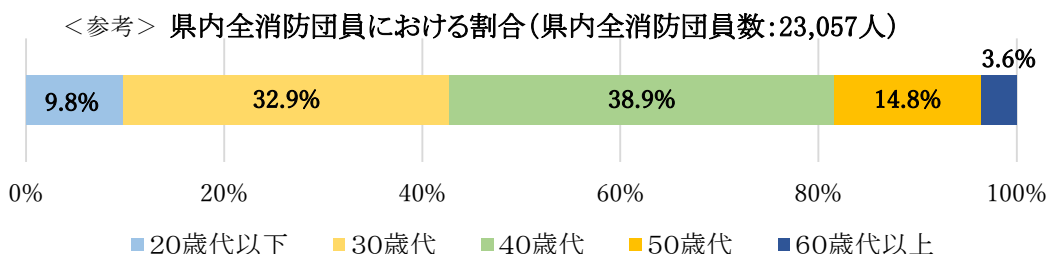
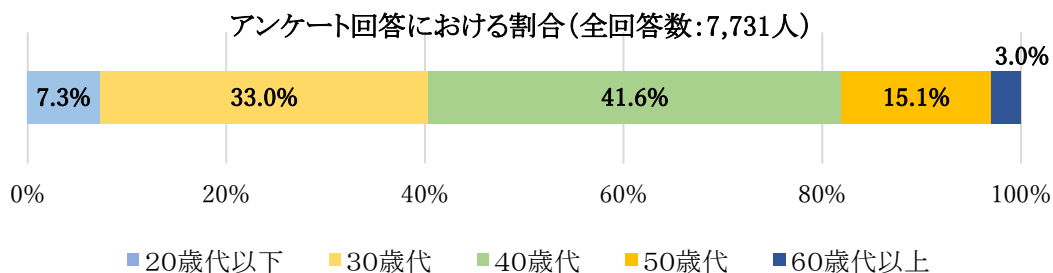
※アンケート調査項目の詳細は、20 ページ以降に参考掲載。

3. 調査結果

(1) 回答者の属性

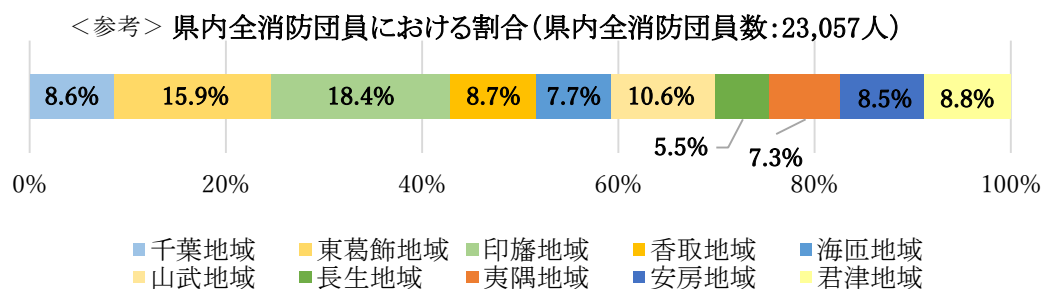
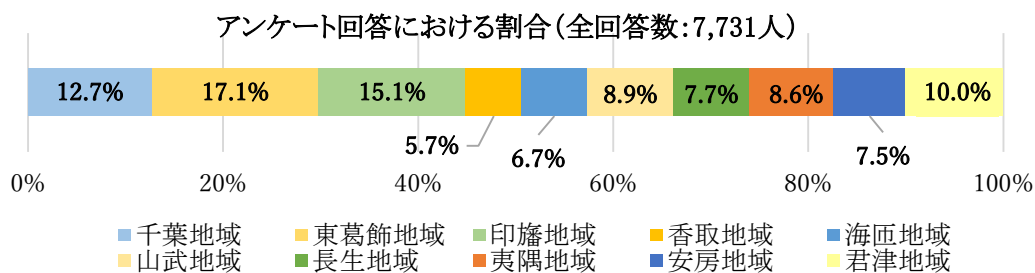
ア. 年齢

回答者の年齢は、「20歳代以下」が7.3%、「30歳代」が33.0%、「40歳代」が41.6%、「50歳代」が15.1%、「60歳代以上」が3.0%となっている。



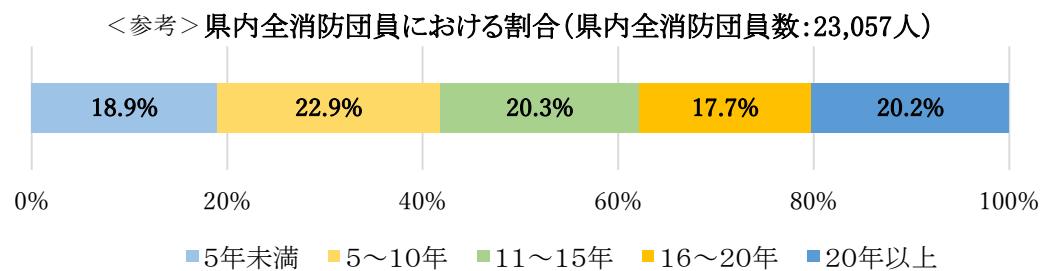
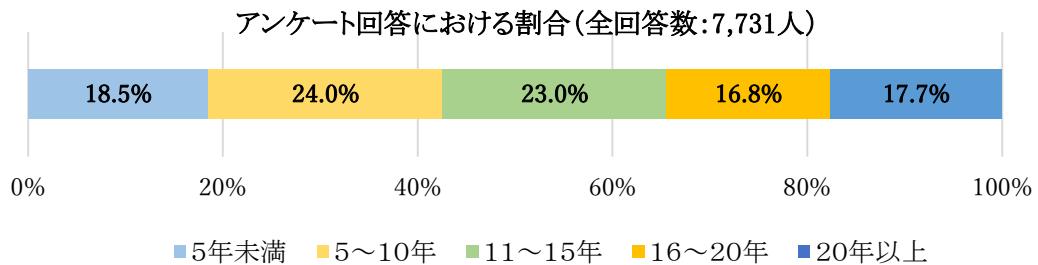
イ. 所属している消防団の地域

回答者の所属している消防団の地域は、「千葉地域」が12.7%、「東葛飾地域」が17.1%、「印旛地域」が15.1%、「香取地域」が5.7%、「海匝地域」が6.7%、「山武地域」が8.9%、「長生地域」が7.7%、「夷隅地域」が8.6%、「安房地域」7.5%、「君津地域」が10.0%となっている。



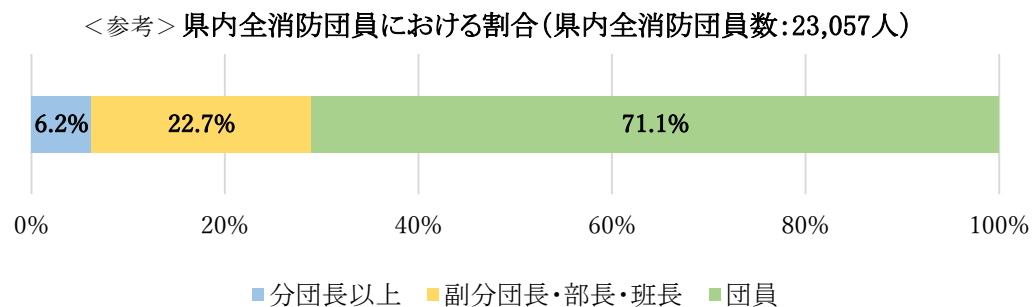
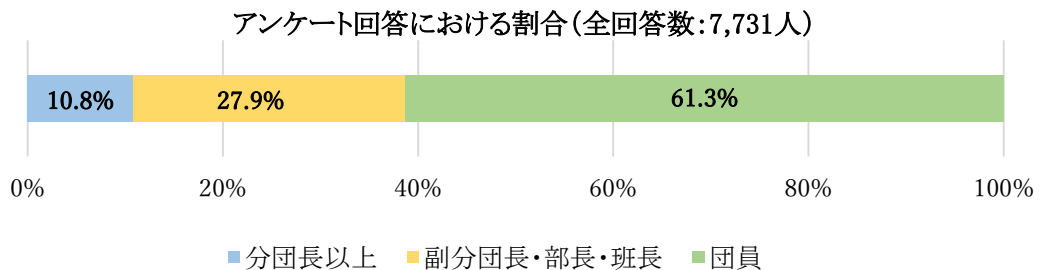
ウ. 消防団加入期間

回答者の消防団加入期間は、「5年未満」が18.5%、「5年～10年」が24.0%、「11年～15年」が23.0%、「16年～20年」が16.8%、「20年以上」が17.7%となっている。



エ. 階級

回答者の階級は、「分団長以上」が10.8%、「副分団長・部長・班長」が27.9%、「団員」が61.3%となっている。

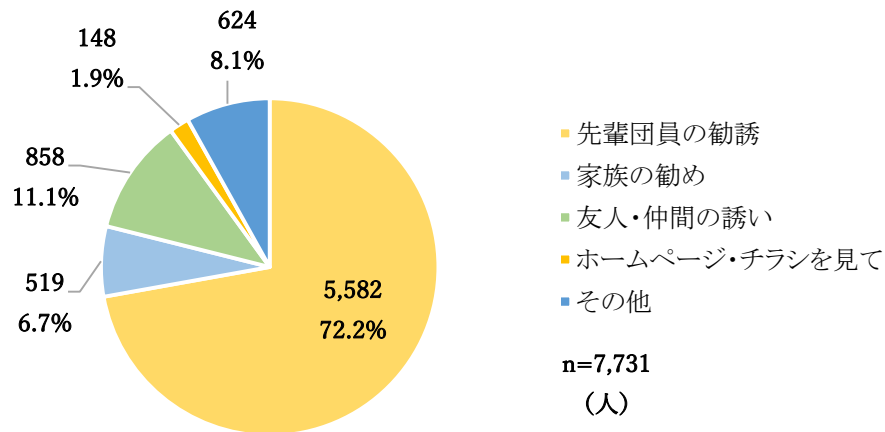


(2) 消防団活動に関すること

ア. 入団したきっかけ

入団したきっかけとしては、「先輩団員の勧誘」が72.2%と最も多く、次いで「友人・仲間の誘い」が11.1%、「家族の勧め」が6.7%、「ホームページ・チラシを見て」1.9%、「その他」が8.1%となっている。

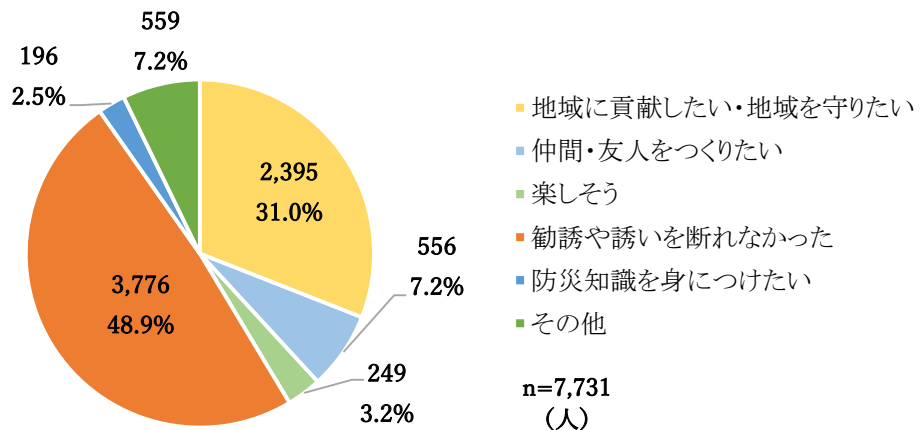
なお、「その他」に関する主な回答では、「消防団に興味があった」、「東日本大震災を経験して、災害時の消防団の重要性を感じて」、「住んでいる地域で順番が回ってきたから」、「家が火事になったので」等が挙げられた。



イ. 入団理由

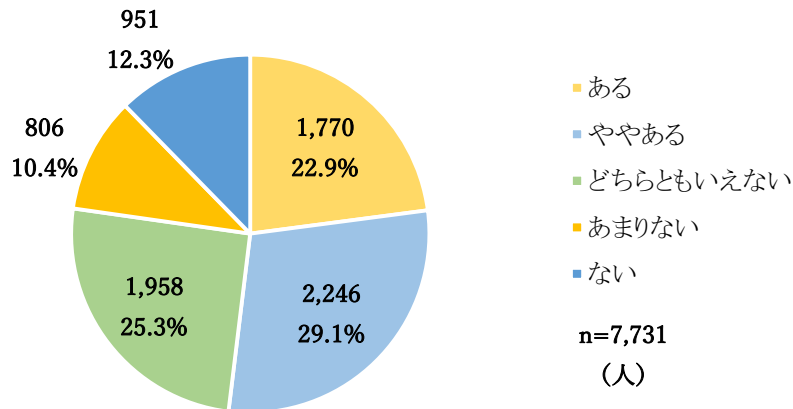
入団理由としては、「勧誘や誘いを断れなかった」が48.9%と最も多く、次いで「地域に貢献したい・地域を守りたい」が31.0%、「仲間・友人を作りたい」が7.2%、「楽しそう」が3.2%、「防災知識を身につけたい」が2.5%、「その他」が7.2%となっている。

なお、「その他」に関する主な回答では、「地元に住むので付き合いとして」、「団員の高齢化が進んでいたから」、「入るのが当たり前だと思っていた」、「消防を目指しているため経験を積みたいと思ったから」等が挙げられた。



ウ. 消防団活動のやりがい

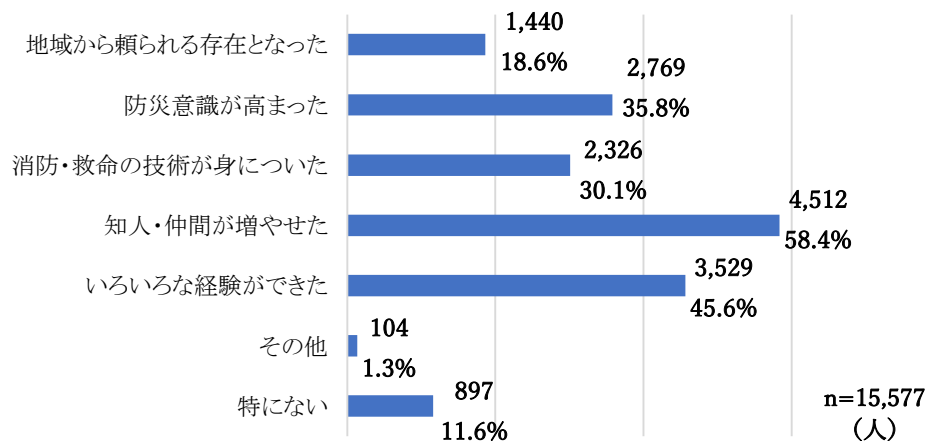
消防団活動のやりがいとしては、「ややある」が29.1%と最も多く、次いで「どちらとも言えない」が25.3%、「ある」が22.9%、「ない」が12.3%、「あまりない」が10.4%となっている。



エ. 消防団活動を通じてよかったと感じること（複数回答項目）

消防団活動を通じてよかったと感じることとしては、「知人・仲間が増やせた」が58.4%と最も多く、次いで「いろいろな経験ができた」が45.6%、「防災意識が高まった」が35.8%、「消防・救命の技術が身についた」が30.1%、「地域から頼られる存在となった」が18.6%、「特にない」が11.6%、「その他」が1.3%となっている。

なお、「その他」に関する主な回答では、「仲間との絆が深まった」、「地域の歳の離れた人との交流」、「自分自身が生まれ育った地域に貢献出来る事」等が挙げられた。



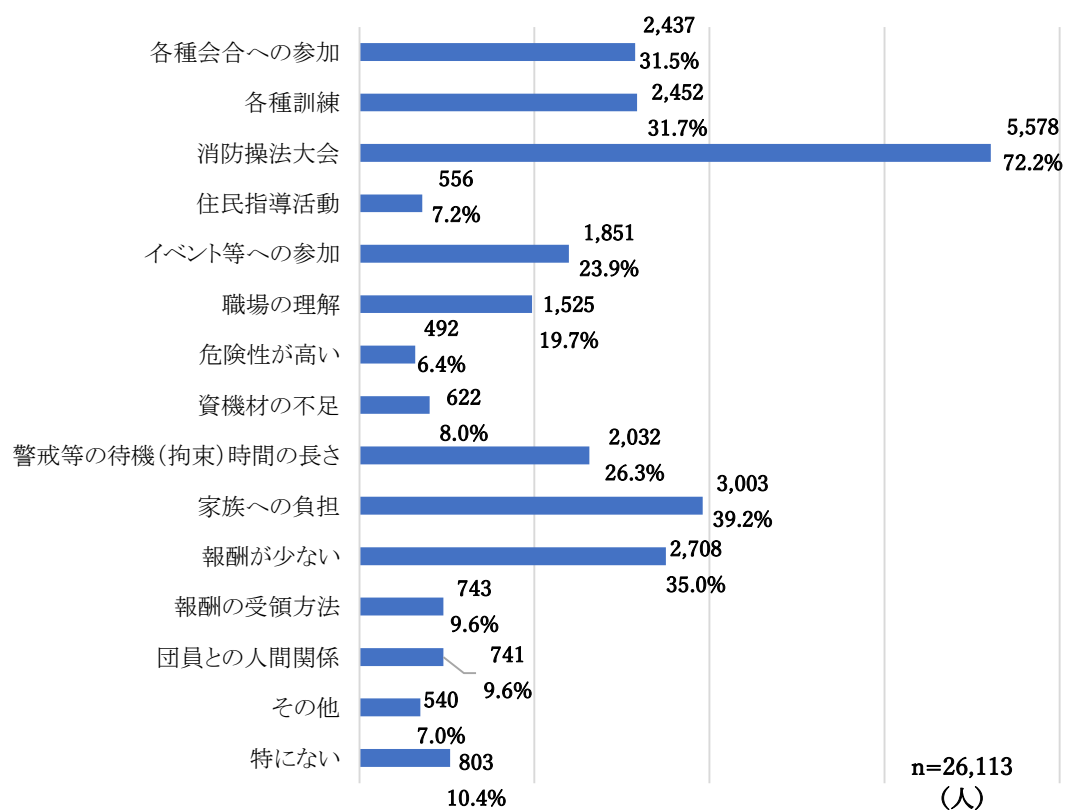
オ. 消防団活動で「不満」や「負担」に感じる事（複数回答項目・自由記述項目）

消防団活動で不満や負担に感じる事としては、「消防操法大会」が72.2%と最も多く、次いで「家族への負担」が39.2%、「報酬が少ない」が35.0%、「各種訓練」が31.7%、「各種会合への参加」が31.5%、「警戒等の待機(拘束)時間の長さ」が26.3%、「イベント等への参加」が23.9%、「職場の理解」が19.7%、「特にない」が

10.4%、「報酬の受領方法」が9.6%、「団員との人間関係」が9.6%、「資機材の不足」が8.0%、「住民指導活動」が7.2%、「危険性が高い」が6.4%、「その他」が7.0%となっている。

なお、「その他」に関する主な回答では、「人員不足のため個人に掛かる負担が大きい」、「若者を惹きつける要素がない」、「技術講習が少ない」等が挙げられた。

また、不満や負担に感じる理由では、「引き受け手が少なく、団員の都合もつきにくい
ため、勧誘が難しい。また、人員確保ができなければ、退団も難しい。」、「消防団を良く
思っていない人が多いと思う」、「団員の高齢化活動を受け継ぐ団員が育たない」、「参加で
きる時にしてくれればいいから、という誘いで入団したが訓練や夜警が頻繁にあり、自分
のプライベートをわざわざそのために調整して犠牲にしている」、「時間に見合う報酬がな
いので家族に理解を得られにくい。特に災害時は家族を優先できないので、せめて納得
のいく報酬が欲しい」、「資機材不足により、活動範囲が限られる」が挙げられた。



カ. 団員確保のためのアイデア（自由記述項目）

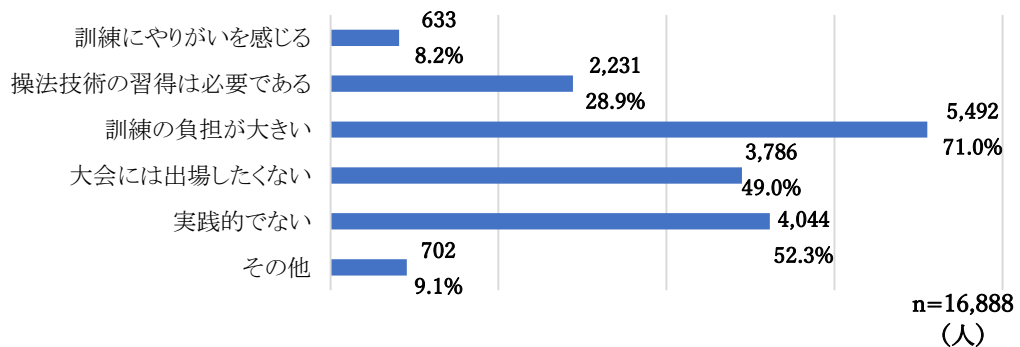
団員確保のためのアイデアに関する主な回答では、「消防イベント以外のイベントでの
アピール、団員募集のチラシ等を設置してもらえそうな商業施設等へのアピール(スポ
ーツジム、運動施設など身体を動かす事が好きそうな人が集まる場所など)」、「TVCM 等
で消防団の重要性、必要性をアピールして欲しい」、「団員報酬を上げる」、「活動内容の
PR が足りない。操法のイメージが強いので、それ以外の活動をアピールした方が良い」、
「消防団員には、各店舗での割引制度など、家族へのメリットが欲しい」等が挙げられた。

(3) 操法に関すること

ア. 操法についてどう思うか（複数回答項目）

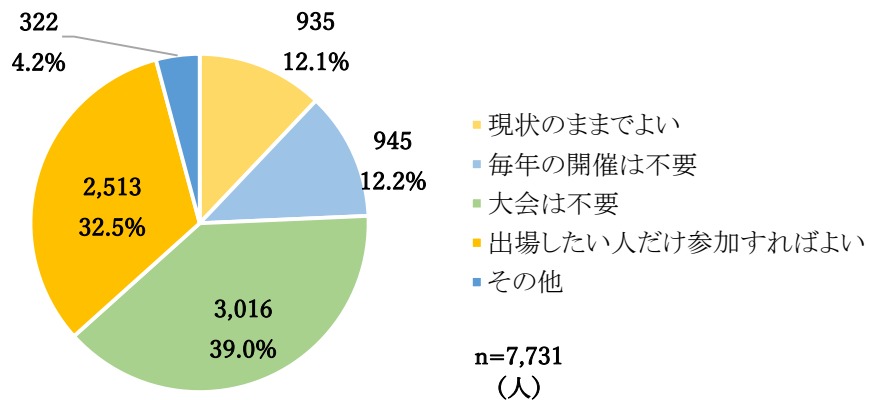
操法についてどう思うかとしては、「訓練の負担が大きい」が71.0%と最も多く、次いで「実戦的ではない」が52.3%、「大会には出場したくない」が49.0%、「操法技術の習得は必要である」が28.9%、「訓練にやりがいを感じる」が8.2%、「その他」が9.1%となっている。

なお、「その他」に関する主な回答では、「ポンプなどの取り扱いを覚えるには丁度いいと思う」、「訓練結果に大きな意味は無いが、団員の顔合わせ及び交流として必要と考えます」、「必要性をまったく感じない。時代錯誤」等が挙げられた。



イ. 消防操法大会の開催についてどう思うか

操法大会の開催についてどう思うかとしては、「大会は不要」が39.0%と最も多く、次いで「出場したい人だけが参加すればよい」が32.5%、「毎年開催は不要」が12.2%、「現状のままでよい」が12.1%、「その他」が4.2%となっている。



<参考> 消防操法大会の開催に係る地域別、階級別等の回答結果

回答項目		現状のままでよい	毎年の開催は不要	大会は不要	出場したい人だけ参加すればよい	その他	
回答数		935	945	3,016	2,513	322	
割合		12.1%	12.2%	39.0%	32.5%	4.2%	
地域別	千葉地域	12.7%	25.0%	14.7%	25.3%	29.8%	5.2%
	東葛飾地域	17.1%	17.9%	12.6%	28.8%	35.0%	5.8%
	印旛地域	15.1%	8.5%	12.8%	40.4%	34.9%	3.4%
	香取地域	5.7%	12.4%	10.4%	35.4%	37.7%	4.1%
	海匝地域	6.7%	8.1%	11.0%	37.9%	40.6%	2.3%
	山武地域	8.9%	6.8%	17.1%	41.7%	29.4%	4.9%
	長生地域	7.7%	7.4%	10.6%	51.7%	26.3%	4.0%
	夷隅地域	8.6%	7.9%	10.5%	44.9%	34.6%	2.1%
	安房地域	7.5%	8.1%	9.2%	47.1%	31.5%	4.2%
	君津地域	10.0%	8.6%	10.1%	51.4%	26.2%	3.8%
階級	分団長以上	10.8%	20.8%	17.8%	31.8%	23.6%	6.0%
	副分団長・部長・班長	27.9%	10.4%	12.3%	40.0%	33.5%	3.8%
	団員	61.3%	11.3%	12.3%	39.8%	33.6%	4.0%
年代	20歳代以下	7.2%	18.9%	10.9%	36.1%	30.2%	3.9%
	30歳代	33.0%	7.8%	9.8%	44.5%	35.0%	3.0%
	40歳代	41.6%	9.1%	12.2%	40.2%	34.4%	4.2%
	50歳代	15.1%	22.7%	16.8%	29.3%	24.6%	6.6%
	60歳代以上	3.0%	31.6%	19.9%	18.6%	25.1%	4.8%
加入期間	5年未満	18.5%	15.4%	9.1%	37.4%	33.8%	4.3%
	5～10年未満	24.0%	9.7%	10.6%	42.6%	33.2%	3.8%
	11～15年未満	23.0%	9.8%	11.2%	41.0%	34.5%	3.5%
	16～20年未満	16.8%	10.5%	12.3%	40.3%	32.7%	4.2%
	20年以上	17.7%	16.4%	18.9%	32.0%	27.5%	5.3%
性別	男性	96.8%	11.1%	12.2%	39.9%	32.8%	3.9%
	女性	2.9%	45.6%	12.7%	9.2%	21.1%	11.4%
やりがい	ある	22.9%	31.8%	17.3%	22.1%	23.2%	5.6%
	ややある	29.1%	12.2%	17.6%	32.9%	33.0%	4.2%
	どちらともいえない	25.3%	4.2%	10.1%	43.8%	39.1%	2.8%
	あまりない	10.4%	1.2%	4.3%	55.8%	35.4%	3.2%
	ない	12.3%	0.5%	1.2%	60.7%	32.7%	4.9%
入団理由	地域貢献	31.0%	21.3%	15.5%	30.4%	28.5%	4.4%
	仲間づくり	7.2%	15.3%	19.2%	30.0%	32.0%	3.4%
	楽しそう	3.2%	20.5%	17.7%	26.9%	31.3%	3.6%
	断れず	48.8%	5.2%	9.5%	47.2%	34.8%	3.3%
	防災知識	2.5%	27.6%	14.3%	22.4%	30.6%	5.1%

【消防操法大会に関する各回答理由】

➤ 大会は不要

理由として多いのは、実践的でない(必要のない動き、現場で役に立たない、技術向上につながらない)のに、負担(拘束時間や頻度、家族、仕事、身体、精神など)が大きいこと、点数やタイムを競う必要性がないこと(機材の使い方十分、タイムより正確性、技術の習得は必要)であった。

次いで、OB や上層部、同調圧力などにより強制参加になること(選手、後方支援)や大会に向けた訓練よりも実践的な訓練を増やすこと、水出し訓練や定期的な訓練で十分、大会があることが新規入団の阻害要因であり退団の理由にもなっているなどの理由も多かった。

そのほか、目的が大会に出るため・勝つためになっていることや、ケガのリスク、時間・税金の無駄、高齢化や人員不足、報酬が出ない、操法に対する団員間での温度差なども挙げられた。

➤ 出場したい人だけが参加すればよい

多くの団員は、訓練が負担、怪我のリスクが高い、実践的でない、人員不足、仕事や家庭を犠牲にしてまですべきことではない、拘束時間が長い、プライベートがなくなるなど、個人的には大会に参加したくない、競う必要がないということが前提で、操法が好き人や大会にやりがいを感じている人がいる、熱量に差がある、強制参加にすべきでない、希望性にしてほしいなど理由を挙げている。

➤ 毎年の開催は不要

隔年開催、4年に一度、持ち回りなど具体的な開催頻度を回答している団員はいたが、多くが、訓練頻度の多さ、拘束時間の長さなど参加団員(選手、支援者)の身体的負担、家族との時間や仕事への支障、家族へ負担がかかることの精神的負担を理由に挙げている。また、一部、金銭的な負担を挙げている団員もいた。

また、消防団員の高齢化や新規入団者がいないことで、人員を確保できず、同じ団員がずっと参加しなければならないことも挙げられている。

そのほか、競う必要がない、実践的でない、他の訓練を実施したい、出たくないと言えない、仕事などで参加できない、操法練習のマイナスイメージで入団者を確保できない、勝つ所が毎年同じ、怪我のリスクなどマイナス面の理由が多かった。

一方、団員との会話が増える、モチベーションが上がる、消防ホースの取り扱いを覚えるきっかけなどプラス面の理由はごく少数であった。

➤ 現状のままでよい

操法は必要な技術であり、操法大会があるから訓練に参加し、覚えることができ、技術も向上するとの意見が多かった。他に、大会という目標ができることでモチベーションが上がることや、訓練を通じてチームワークや団結力、絆が生まれるなどの意見も多かった。

現状に不満がないとする団員の中には、もともと2年に一回だからという団員も含まれ、参加したことが無いため現状のままでよいと回答した団員もいた。

優勝したいという目標や自分の技術をお披露目したい、楽しいからという理由もあった。

一方、言っても無駄や、現状のままでいいが、簡素化を図るなど訓練への対策を求める声もあった。

▶ その他

「どっちでもよい」、「技術や知識を習得できる一方で、速さや美しさを競うことの必要性を感じない」、「高齢化に対応したルールを考える」、「操法は不要」、「大会のための訓練ではなく実践的な訓練とする」、「期間の短縮を希望」、「年齢制限を設け無理のない年齢チームで競う」、「順位をつける必要はない」、「参加することに意義がある大会が望ましい」、「順位を競う大会から技術向上の大会開催が好ましいと思う、団員の確保ができれば開催した方がよい」、「訓練は必要だが競技性は必要ない」、「徹底的に無駄を省くべき」、「若手が少なく高齢化が進んでいるので難しくなる」、「日本橋の橋洗いのように市民が楽しめるイベントとして工夫すると良い」、「全国大会、県大会、支部大会、市大会と順に開催される以上、その下の大会をやらざるを得ない状況で工夫も難しい。日本消防協会や国、県が影響大である」、などの声があった。

(4) その他消防団活動に関する意見（自由記述項目）

消防操法大会の廃止や実践的な訓練（中継訓練、放水訓練、消火栓の使い方、無線の取り扱いなど）の実施、行事の改善（集合時間が早い、あいさつが多い、中身のない研修旅行など）を望む声、拘束時間の長さや集まりや飲み会が多いことによる家庭への影響、仕事への影響が大きいとの意見が多かった。自営業や農家の方が多く入団していた頃と異なり、団員の多くがサラリーマンである現在、時代に合わせた活動や消防団の運営に変わっていないかと消防団の存続さえ危ういとの声も多い。

また、新入団員が入って来ないので、やめたいけどやめられない、任期や定年制度など入団期間を決めてやめやすくしてほしいといった声や、消防団はいらない（特に常備消防が充実している地域）、飲酒などのマイナスイメージが入団の足かせになっている。消防団の必要性や活動が地域や家族・職場に理解されていないことから、幼少期からの教育や小中学校での啓発活動を望む声もあった。

一方で、仲間を増やせた、地域とのつながりができた、いい経験になっている、継続して活動したい、みんなで集まるのが楽しいと言った意見もあったが、だからこそ、変わらないといけないという声もあった。

装備に関する不満（消防車や装備品が古いこと、機庫にエアコンがないこと、カーナビがないことなど）や免許制度の変更で消防車に乗れない団員が増えることを危惧する声もあった。

一部では、金銭的な面で、消防団の活動費用の不透明な使途、住民から協力金を集金して回ること、保険料を徴収されること、個人に入金された報酬の強制的な徴収や協力金という名の罰金、消防団の研修旅行として参加しなくても旅行費を徴収される、消防団に入らない人から支援金を強制的に集めることやそれらの不適正な使われ方（飲食代などの遊興費など）などへの不満の声が上がっている。

また、火災出動しても水を出さないと手当てが出ないことや消防庫の地代を区費から出すこと、地域から消防団協力金を集めて操法大会専用ホース等を買っているなどの声もあった。

ハラスメント・コンプライアンス関係では、打ち上げや飲み会がほぼ強制参加であること、消防団の活動中に飲酒をして暴力を振るったりしている団員がいること、夜間の火災時に飲酒運転が常習化していること、訓練に出ないとパワハラ、訓練中に恫喝やパワハラまがいの言動、喫煙所以外での喫煙、暴言、詰所での飲酒等モラルの低下、火事場や訓練・異議を唱えたときに罵声をあびるなどの声も一部あった。

以下は、いただいた主な意見(個人や団体が特定又は類推されるもの等を除く)

※意見については、原則、原文のまま掲載していますが、誤字脱字等は主旨が変わらない範囲で修正しています。

【訓練内容等について】

- ・現状では市街地の消防団も山間部の消防団も同じ装備で同じ訓練を行っています。しかし起きる災害は地域によって大きく異なると思います。その為、地域の特性に応じた装備や訓練(山間部での行方不明者捜索や市街地での火災訓練等)を充実させるべきと考えます。画一的な操法大会と、それに向けた練習は団員への負担にしかならず廃止すべきと思います。(30代)
- ・操法訓練に関して、自分はやりがいを感じているし、訓練を通じて現場で動けるコミュニケーションが醸成されると思っている。しかし一方で、大会のための演技をするためにこんなに負担が大きいことをしたくない、という意見があることも聞き及んでいます。万が一の際に貢献できる技術、能力を培うために、操法訓練を続けるならその意義を納得できるように伝えられること。もしくは、より実践的な訓練への変換を検討されることが必要な時期なのではないかと思慮します。(40代)
- ・操法なくして、純粹に火災活動だけにしてほしい。地域の農業用、揚げ水の清掃等も失くし後援会費なども徴収しない方が良い(40代)
- ・操法については、幾つかその動きが何故必要なのか分からない部分がある。その辺を見直した方がとつき易くなるのではないか?(40代)
- ・火事以外にも地震、水害等様々な災害発生の危険が年々増加しているので、地域特性にあった実践的な訓練が必要だと思う。(40代)
- ・操法大会については辞退という選択肢が増えたが、特別な理由がない限り辞退しづらいというのが現状である。(30代)
- ・地域の安全、安心を守って行く中で各訓練や操法訓練は大事な活動だと思います。(50代)
- ・地域から消防団協力金を集めて操法大会専用ホース等を買っている団が有る限り、操法大会は廃止した方が良いです。(30代)
- ・訓練時間や集まりなど長く、子育てしながら参加が難しい事が多い。大会の練習などするより、研修を増やした方が効率がいいと思う。(30代)
- ・自治会費で操法大会専用のホースとかの資機材を買ってる部があるので、操法大会を廃止した方が良いと思う。操法大会の為に自治会費を払っている訳じゃない。一部の幹部の自己満足の為の操法大会なんて早く無くした方が良い。(30代)

- ・現在火災が発生した場合、消防団は補助作業や交通整理しかしないので、実際消火活動したり出来ない場合は消防服を着て消火の模擬訓練をやりたい。理由は操法大会の練習しても、実際の火災現場に活用されない為。(50代)
- ・資機材訓練などは、職員さんからも指導を受けたいです。団のバラバラな指導方法では、取り扱いに不安、危険を感じます。自治会の防災委員やパトロールなど、個に受けているボランティアに分団の活動として集合をかける事に違和感を感じます。(50代)
- ・消防団活動は、地域や住民との接点が多くで個人としては前向きであるが、操法大会とそれに向けた訓練などに対する意義と必要性に難色はある。県に対して、消防団員の技術錬成の場として消防学校を用意していると思うが、各地域(振興事務所)単位での消防団員全員の技術錬成の場を設け、全体のレベルアップなどを検討してもらいたい。(30代)
- ・地域の為になればと活動は行いたいと思う。しかし、昔ながらの風習のように惰性で続けているようなものは排除したい。歴史や伝統を重んじることは素晴らしい。だが変化も必要。特に操法は時代錯誤。火事場で消防団がやるべきものなのかと疑問に思う。もっと消防団に求めるものや必要な事を知識として欲しいと感じます。(40代)
- ・地域での交流もでき、入って良かったと思います。操法も仕事との両立が大変ですが、やればやるで充実感もあり、団の結束も高まります。ただ、会社勤め(私自身も)も増え、限られた時間での優先順位をつけると、実際の災害時にどう行動するか知識、スキル取得に時間を費やした方が良いと感じます。(40代)
- ・大会訓練以外にも自分団の消防車で水出し訓練できる機会を。現場で警備だけですめばいいけど、車両の運転しかできないのばかり集まってもホース延長、中継もまともにできない。経験のない団員にわかりやすい訓練を。経験者ですら混乱するような訓練は身につけません。(30代)
- ・備品の適切な使用方法について講習会をするべき。使用方法の不明な備品が多々あり。特にチェーンソーは労災も多く、安全講習は必須。備品の使用目的と使用方法については解説資料を作るべき。そうでなければ新入団員が理解出来ない。(30代)
- ・火事場での対応や実際に使う技能の習得を部内ではなく全体で研修を行ってほしい。操法大会のため為の練習ではなく団員全員が等しく操作をできるように全体での研修を行ってほしい。(40代)
- ・火事以外にも地震、水害等様々な災害発生の危険が年々増加しているので、地域特性にあった実践的な訓練が必要と思う。(40代)
- ・近々起こるであろう大地震や異常気象による災害に対して、備えの強化やレクチャーしてほしい。(40代)
- ・入団後なるべく早い時期に初心者の研修をして消防団の立場、ポンプ車の取り扱い等々教えて欲しかった。(60以降)

- ・班や分団に定例会などでの活動内容を任せている事が多いかと思うが、班により活動のレベルが様々なように思う。団員のモチベーションや活動の意味目的をみんなで共有して、意識の向上とスキルアップを再度見直すことが必要。定例活動で最低限しなければならないこと、そして各種訓練をメニュー化して何をどう活動していくかをもっとわかりやすくする。大規模災害時に自分たちの住む地域にどんな災害が発生しそれに対しどう活動できるかを団員が考えることができる。そんなことをカリキュラムとして積極的に教育していくべきだと思います。(40代)
- ・税金をかけての活動ゆえに、意識を高く持てる内容であるべきだと思います。資格、技術、が勉強出来る場であれば嬉しいです。(50代)
- ・大規模災害時など、消防職員での対応が難しい場合、地域防災力が重要と考えます。そのためにも、水利点検での水利の場所確認や中継訓練での対応の仕方を把握している人員が多い方が有用であると考えます。消防団経験者を含め、そうしたことを知っている人が1人でも多い方が地域防災の意識向上、地域防災力向上に繋がると考えます。(30代)

【団員確保等について】

- ・幼年の頃から消防団はカッコイイと思ってもらえ消防団員になりたくなるような活動が増えたらいいなと思う(50代)
- ・色々と改善されていて活動しやすくなっています。しかしながら団員確保が難しいのが現状です。若くて体育会系であれば操法訓練も楽しいと感じられると思いますが、団員の平均年齢が上がっていますので訓練による怪我のリスクも大きいと肌で感じます。(40代)
- ・地域の住民と一緒にできる訓練が増えると消防団の周知と団員が増えるきっかけになるのかなと思います。(50代)
- ・女性が活動していることの認識が低いと感じる。災害が起こるとボランティアをする人がたくさんいるように、何かしたいと考えている人はいると思う。入団したいと思った時に、電話して、申し込み書いて、となると面倒になるので、すぐにウェブなどを活用して手続きができるとうい。電話をするのはハードルが高い。(50代)
- ・若い世代の生活の変化に対応していただきたい。活動内容をオープンにし、実用的で健全だとアピールしていただければ勧誘がしやすいです。例えば、規律訓練や操法、行進練習ではなく、本署の方の指導のもと火の扱い方や消火器の使用方法を消防団員の家族やお子さんと一緒に体験出来るような家族参加型のイベントとして行い、地域の人も参加可能とし広報などで取り上げてもらえれば効果は高いと思います。消防車を見たり説明を聞くだけでも子供は楽しいと思います。(30代)

【活動内容・行事等について】

- ・消防団が必要なのは理解しているが、災害出動以外の活動(イベントの応援等)で拘束される時間が増えてきており、消防団活動が負担となってきている。地域によっては、他の活動(自治会の役員や、青少年相談員等)との掛け持ちもしている状況である。現状のままでは、今後団員の確保が更に厳しくなっていくため、活動内容の見直しを含めて対策を検討してほしい。(30代)

- ・地域防災としてはとても大切な組織だと思うが、有事の際に集まれる組織を目指さないと、このままでは不要な組織として広く認識が広がってしまうので、必要最低限の活動に絞り、消防団活動が何かという本来の趣旨を広報していただきたい。(20 以下)
- ・多少の報酬を頂いているとはいえ、基本的には日々時間を工面してなんとか活動に参加している団員がほとんどなので、余計な負担がかからないような配慮をお願いしたい。(30 代)
- ・地域にとって消防団は必要だと思いますが、時代にあった活動内容などに変えていかないと新しい団員も入りません。とにかく行事が多すぎると思います。献血や地域のイベントの参加は考えて欲しいです。自分達も子供を連れて参加したい所を我慢して消防団として行って交通整理などやってるのは辛いですよ。(40 代)
- ・昔と違い自営業が少なく、勤め人が多いので、時間を作るのが皆の負担になっていると思う。点検日さえやっついで時間を作る人が多いから、違ったやり方も考えた方が良いのでは。(40 代)
- ・今の消防団員に求められるのは、消火作業ではなく他のことの場合のほうが多い。(60 以上)
- ・消防団はボランティアの様なものなのでイベントや大会等を無理に開催する必要性がない。(30 代)
- ・本部団員は、集まりや飲み会など、かなり時間的にも金銭的にも負担で重荷です。(40 代)
- ・未だに打ち上げや、飲み会がほぼ強制参加的な風潮がある。個人的にはこの打ち上げが一番の精神的負担である。(30 代)
- ・本当に毎度の飲み会とお祭り行事神輿などのほぼ強制参加をやめて欲しい。(20 以下)
- ・出初式についても見直すべきと考える。各団何人以上出席などノルマを課している。強制的に拘束しておいて無報酬という現状を変えなければ、誰も消防団に入ろうとはしない。(30 代)
- ・出初め式で団員に防寒着も着させず、何時間も吹き曝しに整列させるのは止めて頂きたい。(50 代)
- ・献血を各部隊一定人数半強制で出さなければいけないが、それもやめた方がいいと思う。仲間と交流が出来て楽しい事もある。(30 代)
- ・もっと団員の意見を聞いてください。分団長会議でも、方面隊長や団長、副団長の意見が優先されて下の意見が握りつぶされ、消防本部まで意見が伝わりません。消防本部も及び腰で通年の恒例行事を繰り返すだけ。意味のない行事の削減などの抜本的な見直しなど考えていない。別に行事を行うのはいいが、消防団を安い労働力と考えて安い活動費で動員するのはやめてほしい。消防団員はあなた方の消防活動をアピールするための道具ではありません。(40 代)
- ・地域の為になる活動をしたい。(40 代)

【組織のあり方等について】

- ・SNS などでもっと消防団の活動に対して国民に認識してもらう必要があると思います。ドイツのように、幼少期から消防団の活動を知ってもらうような取組が必要です。企業にも消防団員がいることに対してメリットになるような体制作りがが必要です。(30 代)

- ・とても良い組織なのに、もったいない。消防よりも身近で頼られる組織になりたいし、自分自身も地域に貢献したい。訓練、大会の目的等がより明確になるとありがたい。(30代)
- ・地域防災としてはとても大切な組織だと思うが、有事の際に集まれる組織を目指さないと、このままでは不要な組織として広く認識が広がってしまうので、必要最低限の活動に絞り、消防団活動が何かという本来の趣旨を広報していただきたい。(20以下)
- ・市役所に勤めてる人を勧誘に行った時に、消防団は何のためにあるのですかと言われて不愉快だった。強制ではないが、市役所の職員に言われたのがショックでした。(40代)
- ・常備消防の普及・近代化より現状の消防団の存在意義を再度評価・確認をし、抜本的に見直す時期に入っているのではないかと思います。昔ながらの消防団の考えや風習・伝統などに固執せず、これからの消防団はどうあるべきかしっかりと考えて頂きたい。(40代)
- ・年々、消防団員としての意識が低い者が増えているように感じる。税金で運営されていることの重要性の理解が足りないと思う。(50代)
- ・農村部では消防団は地域防災に絶対に必要な組織です。これからも消防団が持続可能な組織であるために、活動の見直し、効率化をお願いします。(40代)
- ・千葉県でも有数の過疎地区で活動しております。正直自分より下の世代が今後この地区に住まうビジョンがありません。今まで15人程で行ってきた活動も今は9人で何とかこなしております。団員1人1人の負担は相当なものです。もう今までの消防団と言う枠組みでは無理だと感じております。(30代)
- ・地域防災を担う上で、消防団活動が『ボランティア』と思われるのは甚だ遺憾である。さらに活動していく上で地域の方には活動の透明化、理解を得ることが大事であると考えている。(30代)
- ・地域に若い人が少なくなってきたので、消防団という組織事体を考え直さないといけない時期がきていると思う。このままでは団員の高齢化で自然消滅すると思う。(50代)
- ・組織や体制も変える気がなく、団員不足を嘆くのは筋違いだと思う。(30代)
- ・強制的に時間、役割負担など強要すると長く続かないので無理の無い範囲での活動が望ましいと思う。(50代)
- ・消防活動を客観的に監査する機関の存在が必要なのではないでしょうか？(40代)
- ・年功序列で若い人の意見を取り入れないのでは、発展はないと考えます。若い人が活動しやすい環境を作るのも必要だと思う。(50代)
- ・地域の方と触れ合う機会がない中で、いろんな分野の方々と話が出来ることがとても良いものであると感じております。(50代)
- ・一人一人状況、条件が異なりますから、各々ができる時に出来ることを行い、それをお互いに尊重し合うことが出来たら良いと思います。(50代)
- ・コロナ禍で2～3年操法大会を実施していない地域が多いと思います。その際に「地域防災力の要である消防団」活動にどのような支障があったか検証していただきたい。また、操法大会を実施しなくなった地域もあると聞きますので、その地域の消防団活動にどのような支障がでているのかも検証していただきたい。(40代)

- ・負担軽減に真剣に取り組まなければ団員の高齢化に伴う消防力の弱体化は避けられないと思う。(40代)
- ・消防団が世の中に必要なら、やり手の事を考えた運営をしていただかないと存続が不可能です。団員確保の為に改革が必要です。(40代)
- ・仕事をしながら集まってくれている団員に必要以上に時間拘束をしない。個人的感情で運営させず、パワハラ、男女差別等ハラスメント行為をする幹部は即座に役職をはずす。古いものが正しいという悪しき風習は無くす。(60以上)
- ・世間や一部団員からも活動に否定的な声があるかとは存じますが、消防団活動にやりがいを感じている団員もいます。ネガティブな意見だけでなく、私のような団員意見があることも踏まえて、今後の在り方を考えていただけると嬉しいです。(30代)
- ・今の時代にあった訓練方法や団運営に改変して、自分の子供達にも入らせたいと思えるような組織にして行ければ良いと思う(40代)
- ・無くてはならないと思っているので頑張ってますがやりたくない人はやらないで済む事に不公平も感じる(40代)
- ・昔のやり方でやっていたらやるやつはいなくなる。にも関わらず俺らの時代はハラスメントが横行している。男しかいない為、飲み会に金をかけ無駄な金、時間が消防費から流れている。口を揃えてコロナの時期は本当に集まりがなくてよかったのにと言っている程。人がいないなら女性にも入ってもらい内部から昔の飲み会等の無駄な風習をなくし新たな体制を作らないと女性からの協力は得られない。消防が嫌で引っ越しまで考える人がいることを重く受け止めて決まりやルールを県が徹底させないと田舎から人がいなくなる(30代)
- ・飲み会中に火災があった時、団役員が誰も動かない組織は解散した方がいい。本当にかっかりした。飲み会に最後まで参加する人をずっと役員に残そうと必死になってるのを聞くとすごく引く。実戦的な訓練をもっとやった方がいいと思います。地元の有事の際には協力はしたいが団役員の協力は一切したく無い。(40代)
- ・団費の使い方が不透明。役員だけが美味しい思いをしている気がしてならない。しかし消防団に入らなければ、知り合うこともなかった人たちと知り合う機会ができ結果とても良かった。自分たち中心に物事を進める役員ではなく、若い団員の意見や話しを聞くことができれば、これからの発展する可能性は十分あると思います。(40代)
- ・団費の使い方を取り締まるべき。使い道が荒すぎる。操法大会は廃止にし、消防車の扱い方や水出しのやり方、消火活動時の動きなどの研修をやるべき。実技はその場しのぎでしかない。私は消防活動のためにプライベートや仕事の時間を削りたくないの、地元から引っ越ししました。しかし、消防団の名簿にはまだ載っています。なぜなら、代わりを見つけれないから。消防団=飲み会と女遊びというイメージは、今も昔も変わらないと思います。よろしく願いいたします。(20以下)
- ・現役団員の声が反映されるべき事案を分団長よりも上の団幹部が揉み消したりするので、風通しが悪い。全国的にある消防団の悪いイメージ、現状の消防団員減少の問題はOBや今の団幹部によるものである。(40代)

- ・内部統制制度を導入していない自治体の消防団運営は、危うい事が起こる可能性が多い気がします。私の住んでいる自治体は入団時にも消防団がどんな組織なのかを教えてくれる研修も無く、それぞれの消防団が無秩序に運営をしております。職務分掌やリスクコントロールマトリクス等を消防団にも導入していただけるとありがたいです。(40代)
- ・操法大会への参加を分団に任せては、半ば強制で参加せざるを得ない状況であり、練習参加など負担が大きいので、参加するかどうかは完全に個人の自由に任せるように本部の方で通達すべき。分団に任せても半ば強制になってしまう(40代)
- ・人員確保が難しい中、支団内の分団担当エリアを見直し、分団数の改廃を行い総数を見直す事も必要かもしれないと思います。(40代)
- ・人口が減っているのに分団、部の編成、団員の定数が変わらないのはおかしい。(30代男性)
- ・女性男性分けずに共に働いたらどうか？(40代)
- ・本部員の知識リーダーシップが皆無。災害時現地に来るだけなら何の意味も無い(40代男性)
- ・消防団の活動、消防団の必要性は絶対的にある。火災や災害はいつ起きるか、その規模は分からない。必要なのは初動対応である。火災や災害の備えだけでは万全ではない、必要なのは知識や技術、人員のマンパワーだと考える。(40代)
- ・地域外に勤務地があるサラリーマンがほとんどで、平日は機能しない。日頃地域にいるリタイヤ組などの住民も巻き込んだ構成の団体が必要と考える。住民からの集金には問題があり、廃止したくとも甘い汁を吸ったOBなどの反対により、手を変え品を変え集金しており、なんとかして欲しい。(40代)
- ・地元の火消しは大事です。しかし現実には操法大会に勝つことだけを考えている集団です。活動の8割は大会に向けた訓練。勤め人が多い今は、わざわざプライベートの時間を削ってまでやる意味のない活動です。消防団に力を入れるよりも、消防署員の増員と環境改善に力を入れてください。表向きはボランティアでも、地方は団員確保のために半強制的に入団、入らない人は支援金を強制的にとられるなど、害悪でしかないものになっています。(20以下)

【処遇改善等について】

- ・地域防災には必要不可欠ですが、その為には待遇の改善や長く続いた風習を撤廃して参加し易いようにするのが良いと思います。(30代)
- ・手当の支給に制限があるようになった。一度の巡回人数も制限がかかっている。これでは人は増えず、減っていくだけ。従来やり方に戻して欲しい。(30代)
- ・プライベートを犠牲にしたり危険性を伴う活動を行っているのだから、しっかりと活動をしている人には相応の報酬等を示し、非協力的な人との差を明確にすべき。(30代)
- ・消防団に参加している人でお金のために動いている人はいないと思う。しかし報酬をもらえることでモチベーションのアップや助かる人は居ると思う。出て来てない団員などの選別を進めて、ちゃんと活動している人が報酬を受け取れるような消防団になるといい。(30代)
- ・活動もしていない幽霊部員を辞めさせるべきだと思う。税金の無駄遣い。幽霊部員の為に年間報酬を払うなら、ちゃんと活動している人に、もっと貢献するべきだと思う。(40代女性)

- ・今、人員不足で困っています。分団の合併して欲しい。火災出動しても水を出さないと手当が出ない。(40代)
- ・ケガをして働けない期間の休業補償はするべき。(40代)
- ・出先で出動依頼があった際速やかに現場に向かうため団員に対しては緊急走行の許可を頂きたい。運転できない団員が多数居るので免許の費用を国で負担して欲しい。市の活動に参加した場合市役所は仕事として参加なのに団は弁当代だけでは納得できない人多数。各団に災害用備品や AED、生理用品(多種類)、救急セットを配布して欲しい。消防庫の地代を区費からだすのはおかしい。災害があった場合団員は活動しているので家族に対して衣食住の優遇措置を速やかにとつて欲しい。(30代)

【会計処理等について】

- ・活動に必要な予算を増やして欲しい。現状は不足分は分団員の持ち出しで賄っている場合がある。新規で募集しても活動する度に分団員の負担があると積極的に勧誘できないと思う。また、活動報酬についても振り込まれるが、明細が無い為、活動した回数に対してどのくらいの割合が支払われているのか不明である為、明細が欲しい。(30代)
- ・活動を継続していくなら負担を減らして、もっと住民全体で負担を分散するような仕組みにして欲しい。地域、団地から集金の際も嫌味を言われることもある。私達もやりたくてやってるというよりは、誰かがやらなくてはという立場なのに理解がないので、一部集金も負担と感じます。行政の方でお金関連は全て集金し、人口、面積、地域柄等で全ての予算を再分配するべきだと思います。(30代)
- ・昨年までは消防協力費として、該当地域を団員が集金していたが、法律に詳しい？という人から違法ではないかと市役所？に指摘があり今年からは団員による集金できなくなった。そのため区費として集金してもらっているが区に入っていない人はたとえ隣りの家でも集金していないため払っている人は不公平であり不満である。早急に何か行政として対応していただきたい。違法であるならば該当地域の戸数×一律の金額で市から活動費として支給するなど、行動を起こしてほしい。(20以下)
- ・毎年分団にお金を徴収されるのですが、不要なのでは？何故徴収されるか理由は教えてくれないのですが、1人当たり3千円徴収されます。必要であれば県が資金を出せば良いのでは？(40代)
- ・自分はお酒を飲めません。何かとお酒を飲む機会が多いのが消防団です。お付き合い出来ない事が負担になっております。悪い事では無いと思いますが、キツイです。地域から預かっているお金がお酒代になっていると言われ事が多々あり、とても寂しく感じます。消防団の活動を一般の方にもっと知って欲しいです。報道等で広めてください。お願いします。(50代)
- ・分団長会議の際に、消防団の懇親を深めるとの名目で、宴会が開かれ、分団長一人が1日に数十万円を支出するなど、地域の方から預かる協力金の使われ方として、看過し難い状況がある。こうした現状が是正されなければ、消防団そのもののイメージが著しく損なわれ、団員確保が困難となる(既に支障がある)ため、早急に改善して欲しい。(40代)

- ・消防団活動は地域の防災にとって必要不可欠であり、やりがいもあります。ですが、法律で定められている団員報酬だけについては、きちんと受領できる仕組みにした方がよいと思います。市からは部の口座に活動費とまとめて振り込まれ、明細等の通知も一切ありません。そのため、団員個人への支給はされず、部の活動費と飲食代として使用されています。分団の方に相談したところ、「報酬を幽霊団員にも支払うと、他の団員が納得しないのではないか。」ということでした。(40代)
- ・活動費について、自分の地区は個人に振り込まれたものを回収して団の活動資金としている。一旦個人の収入となることで余計な税金がかかることとなる。各地区の実態によって、最初から団に支払うなりなんなりして頂きたい。次に、災害発生通知のメール。市内全域の出動要請が届くため、担当でないもので夜中起こされることも多く、負担に感じる。担当分団のみの出動要請を送れるようにしてほしい。最後に、とにかく団員の負担軽減に努めて欲しい。新入団員が居ない。消防が嫌で逃げだす人も居る。今の世代はいつまで続ければいいのでしょうか。(40代)
- ・消防活動の報酬、出動費などしっかり各団員に明確に配布の強制すべき。毎回の食事、会議の時などに使われてるのは迷惑。集まりなどに参加出来ない人にはメリットがない。(30代)
- ・報酬を個人支給にしたため活動の資金が集まらなくなった。(40代)
- ・地域のための消防団が大会のための消防団になっている。本部付きと下の団員との意見が真逆。本部の運営資金が無いからって下の団員からお金を取るのはおかしい。取るならちゃんと運営資金の使った詳細を出すべきだ。(30代)
- ・分団長は各分団から上納金を集めています。使途は役員の飲み代。今の額では足りないからと増額を要望されてます。二次会代やコンパニオン代も下から徴収しようとしています。(40代)
- ・今年5月、本部に部班長が集められ、本部の活動資金の負担を各部に要請する伝達がありました。出席者からは総務省通達に違反するとの指摘があり、この話はうやむやになりました。ここ数年、活動がイレギュラーになったことで、団本部の運営能力の脆弱さが浮き彫りになってきました。一方で本部から各部員に対する情報共有はほとんどなされておらず、担当地域の範囲もつい最近まで知らなかったほどです。かかる状況は幹部の思考がアップデートされないことが原因で、対策が必要と考えます。(50代)
- ・参加していないのに出席扱いにされ、水増し請求している。年に一度の3万円程度の振り込み及び水増しした出席分のお金を集金され、手元には参加しないと一銭も返ってきません。コロナ前には慰労会にコンパニオンを呼んだり、キャバクラなどにお金使ったりしていました。そのお金も集金したお金から出しています。税金の無駄遣いだと思いますので、適切に管理もしくは団自体無くした方がよいと思います。(30代)
- ・強制的な自治防災費の徴収で、しかもろくな消防活動もせずに潤沢な資金で飲み食いして、しかも活動費で風俗に行く始末。いずれ消防団の不祥事をあばいてやる。(40代)

- ・活動費が全額、分団にプールされれば飲食代やコンパニオン代、旅行代に消化される伝統が変わらない。即是正すべき。有事の際、真面目に出動する団員と飲み会だけに参加する団員とで意識レベルの差が顕著である。ホースの巻き方や規律訓練などよりも各機材の取扱い方法や消火栓の使用法、緊急車両の運転注意点等、実際に即した訓練を定期的に行うべき。年末夜警や強風注意喚起は集まらずに防災無線で代用を出来ないのか。結局、宴会しているだけ。金も時間も無駄だ。総じて消防団に入団して良かったことは一度たりとも無い。(30代)
- ・消防団は活動以外にも強制されるものが多く、今の時代には合わない。飲み会や旅行は禁止にすべき(半強制されるから)。報酬は個人で使うことができないのに、旅行積み立てなどの出費があるのはおかしい。ただでさえ、身体、精神的に負担であるのに、金銭的にも負担が発生する組織に入りたいと思う人はいないと思う。アンケートを実施するのであれば、早急に改善してほしい。また、アンケート後の結果は地域などは関係なくどのような結果となったのか公表してほしい。(30代)
- ・消防団の研修旅行として参加しなくても旅行費を取るのは止めろ！研修旅行なら帰宅後に全団員に向けて参加した人全員に研修のレポート提出、会議で1人1人プレゼンするべきだ。ふざけた事をしている消防組織は、一度解体して再スタートした方がいい。(40代)
- ・分団長宛の事務連絡が多すぎて負担が大きい。研修後の宴会で、地域住民から徴収した協力金でコンパニオンを呼んで一晩で数十万円使うような悪習を廃止する為、退職した職員の自慢話を聞くだけの宿泊研修は辞めてほしい。夜警について同時期に消防署も回っているので無駄。選挙手伝いをさせられる。とにかく団員、家族の負担の大き過ぎる操法を廃止してください。(40代)
- ・消防費について、当分団でもある地域の区長さんから消防費を納める事に疑義を呈されたと聞きました。これは全国的に見られる問題で、非常勤特別職の地方公務員である消防団員が寄付金を受領する事は違法であるとの理由です。現に条例で消防費を無くした自治体もあると伺いました。しかしながら、その原因が各部の会計にあるのも事実です。消防費の使い込みやおおよそ研修とは呼べない旅行など、消防費の不透明な使われ方にも問題がありますので、会計監査を自治体がきちんに行うべきです。(40代)
- ・昔ながらのしがらみ等のために本来行わなくて良い活動や負担があり、昔からやっているという理由でグレーゾーンの法令違反したり、横領が起りやすい不透明な管理体制になっているので、これらを問題を監督指導できる仕組みを作って欲しい。(30代)
- ・会計について、団員の費用をどのように使うことが適切かガイドラインを策定するか、あるのであればわかりやすく表示してほしい。現状について非常に不適切であると感じる。活動は水利周りの草刈りと、水出し点検のみにしていかなければ過疎地域で、仕事の負担が大きい人間は結局団の活動に嫌々参加することになってしまう。上からきちんと仕事を整理し、あくまでボランティアとして地域のためになることをする活動にしていきたいと切実に思います。(30代)

【綱紀肅正等について】

- ・消防団は必要だと思いますが、組織(本部)の人間がパワハラまがいの発言をしたりするので注意をすると叱咤激励と言われてしまいます。組織改革が必要(30代)
- ・地域に貢献するために入団した。しかし、入ってみればそこは、言わば部活動。上下関係があり、上の者が白と言えば白、黒といえれば黒というような社会構造が構築されている。男女関係なく、風通しの良い組織にするためには、体育会系のような構造を改める必要があるのではないのでしょうか。立場は立場とし皆がフラットな関係で気兼ねすることなく意見を出し合える組織を目指すことが大切だと思う。また、モラルの低下も消防団のイメージ低下に影響があると思う。喫煙所以外での喫煙、暴言、詰所での飲酒等、代表者であるとは思えない者もいる。(30代)
- ・消防団の活動中に飲酒をして暴力を振るったりしている先輩が多数居ます。それを黙認している自治体もおかしいと思います。今後の事について真面目に考えて欲しいです。(30代)
- ・操法大会の練習で暴力を受けました。大会での練習のせいで、足がまだ痛いのですが、どこが治療費など後遺症への賠償金を払ってくれるのですか？(20以下)
- ・夜間の火災時に飲酒運転が常習化している。訓練に出ないとパワハラを受ける(30代)
- ・抜き打ちで機庫の冷蔵庫を見に来て下さい。ビールがギッチリ入っています。歳末警戒は毎日飲み会です。火事があっても飲酒運転でむかいます。まず酒が団のスペースにある事自体おかしい。掘れば掘るほどやばいことが出ています。活動費でキャバクラやコンパニオンに行ったり。強制旅行、飲酒運転、団員報酬の回収(今は回収がだめになり会費制、昔は通帳がもらえませんでした。とられるのは結局変わらない)操法の強制参加、今の若い人は消防に繋がりを求めている。消防しかやることがない人が牛耳っているとおもいます。(30代)
- ・地域貢献をしようという熱意を持った人間をその人の仕事の都合も考えず奴隷のようにこき使ったり、訓練中に恫喝やパワハラまがいの言動を当たり前のように行っている人物がいたり組織として問題がありすぎる。最近団員に払われる活動費が増額されたがそういう事ではなく団員の負担そのものを減らす事を第一に考えるべき。正直いまだに熱意を持って活動を行っている人がいるのか疑問。(40代)
- ・操法に対する熱意があるOBは、現役からは害悪扱いされているという現実をよく理解すべき。今の若い人たちにも、自分たちなりの責任感や地域への思いはあるのに、さまたげになっている。また、OBが現役団員へ介入して、操法の練習回数を増やすように強要したり拘束時間を延ばしたりと、指導と言う名のパワハラやセクハラの温床となっていることをきちんと把握すべき。そういう団体を見ると、若い人が入ってこないのは当たり前だと思う。地域には意外とまだ候補者は居るのに。あと、繰り返しになるが報酬が低すぎるのは何故まだ改善されないのか。(40代)
- ・消防団に入っている人は、選挙の全て(後援会入会、選挙権利など)に一切関わりを持ってはいけないと規約を作してほしい。上の人間からの選挙の圧力が断りきれない。(40代)
- ・選挙協力への半強制動員があります。思想信条(人生や政治に関する考え方)の自由への介入であり精神的に負担です。(50代)
- ・団員や団上層部員に関してパワハラやセクハラやセクハラ等の講義を受講させるべき。(50代)
- ・団員確保とか地域ごとに色々な問題あると思いますが、ブラックな事やコンプライアンスが少しずつでも改善されたら良いと思います。(40代)

【その他】

- ・消防団員は一生懸命やっている方がほとんどだと思います。時間を削って地域のためと思い活動していると思います。市の職員はもっと消防団員を大切にすべきだと思います。(40代)
- ・今後、AT 限定の団員が増えてくると予想されるため消防車は、故障していなくても MT から AT へ順次変えていくべき。免許を MT で取った人も、普段は AT のクルマに乗っている場合が多く、少なからず抵抗があると思う。(20 以下)
- ・こういったアンケートを定期的に行ってほしい。(40代)
- ・今のままではやり手がない。団員確保が本当に大変な状況である。このアンケートを参考にしながら対策を本気で考えてほしい。形だけのアンケートなら今後は二度とやらないでほしい。改善を期待している。(40代)

参考掲載：消防団活動に関するアンケート 調査項目詳細

■ 基本情報（回答者の属性）

1. 性別を選択してください。

- 男性 女性 その他

2. 年齢を選択してください。

- 20歳代以下 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代以上

3. 所属している消防団の地域を選択してください。

- 千葉地域(千葉市、習志野市、市原市、八千代市)
 東葛飾地域(市川市、船橋市、松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市、浦安市)
 印旛地域(成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町、栄町)
 香取地域(香取市、神崎町、多古町、東庄町)
 海匝地域(銚子市、旭市、匝瑳市)
 山武地域(東金市、山武市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町)
 長生地域(茂原市、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町)
 夷隅地域(勝浦市、いすみ市、大多喜町、御宿町)
 安房地域(館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町)
 君津地域(木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市)

4. 消防団加入期間を選択してください。

- 5年未満 5年～10年 11年～15年 16年～20年 20年以上

5. 階級を選択してください。

- 分団長以上 副分団長 部長・班長 団員

■ 消防団活動に関すること

問1-(1):入団したきっかけを教えてください。

- 先輩団員の勧誘 家族の勧め 友人・仲間の誘い
 ホームページ・チラシを見て その他

問1-(2):入団理由を教えてください。

- 地域に貢献したい・地域を守りたい 仲間・友人をつくりたい 楽しそう